

8月における大豆の病害虫の発生状況は以下のとおりです。

巡回調査(20 地点)は、8月上旬(8月2～5日)、8月中旬(8月 17～20 日)に実施しました。

○ ベと病

- ・8月上旬の巡回調査では、発生地点率は 10.0%で平年(9.9%)並となり、発病株率は 0.4%で平年(2.7%)よりやや低い状況でした。
- ・8月中旬の巡回調査では、発生地点率は 55.0%、発病株率は 40.6%で、いずれも平年(発生地点率 58.2%、発病株率 42.7%)並の状況でした。(図1)
- ・品種別の発生地点率は、「ミヤギシロメ」が 67.7%、「タンレイ」及び「タチナガハ」での発生は確認されませんでした。

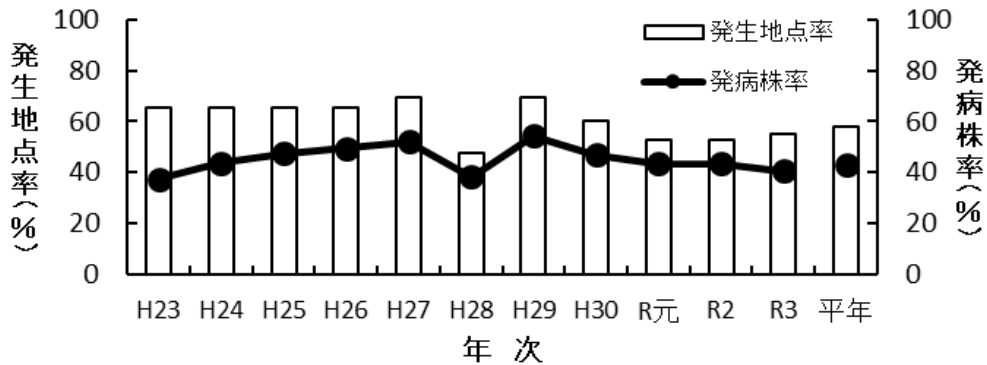


図1 ベと病の発生地点率及び発病株率の年次推移(8月中旬)
調査株数:25 株 平年:過去 10 か年平均

○ わい化病, ウイルス病 (わい化病を除く)

- ・今回の巡回調査では、発生は確認されませんでした。

○ 立枯性病害

- ・今回の巡回調査では、発生は確認されませんでした。

○ ジャガイモヒゲナガアブラムシ・その他アブラムシ類

- ・8月上旬の巡回調査では、発生は確認されませんでした。
- ・8月中旬の巡回調査では、ジャガイモヒゲナガアブラムシの発生地点率は15.0%で平年(19.4%)並、25株当たりの発生虫数の平均は0.6頭で平年(3.9頭)よりやや少ない状況でした(図2)。
- ・その他アブラムシ類の発生は確認されませんでした。

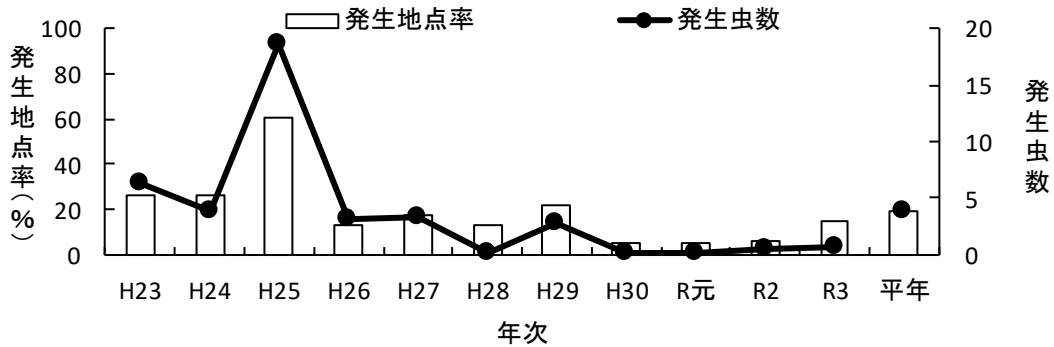


図2 ジャガイモヒゲナガアブラムシの発生虫数及び発生地点率の年次推移(8月中旬)
調査株数:25株(上中位1小葉) 平年:過去10か年平均

○ 吸蜜性カメムシ

- ・8月上旬の巡回調査では、1地点で1頭ホソヘリカメムシが確認されました。発生地点率は5.0%、100株当たりの発生虫数の平均は0.05頭でいずれも平年(発生地点率3.3%、虫数0.03頭)並の状況でした。
- ・8月中旬の巡回調査では、発生は確認されませんでした。

○ フタスジヒメハムシ

- ・8月上旬の巡回調査では、発生地点率は10.0%、25株当たりの発生虫数の平均は0.4頭で、いずれも平年(発生地点率19.6%、発生虫数1.5頭)よりやや少ない状況でした。
- ・8月中旬の巡回調査では、発生地点率は25.0%で平年(20.1%)並、発生虫数は0.4頭で平年(2.1頭)よりやや少ない状況でした
(平成24年より調査を開始したため、平年値は過去9か年平均の値)

○ ウコンノメイガ

- ・8月中旬の巡回調査では、25株当たりの葉巻被害の発生地点率は40.0%、葉巻数の平均は0.8枚で、いずれも平年(発生地点率50.4%、葉巻数9.7枚)よりやや少ない状況でした。

○ チョウ目食葉性害虫(幼虫)

- ・8月上旬の調査では、26.3%の地点で発生が確認され、主な加害種はツメクサガ、ミツモンキンウワバ、ヨモギエダシヤク、オオタバコガ、ダイズサヤムシガでした。

- ・8月中旬の巡回調査では、35.0%の地点で発生が確認され、主な加害種はツメクサガ、ミツモンキンウワバ、ウコンノメイガ、オオタバコガ、ヨモギエダシヤクでした。
- ・定点調査ほ(古川農業試験場)に設置しているオオタバコガのフェロモントラップの誘殺数は、7月上旬頃から8月上旬から増加を続けており、平年と同様の発生消長でした(図3)。

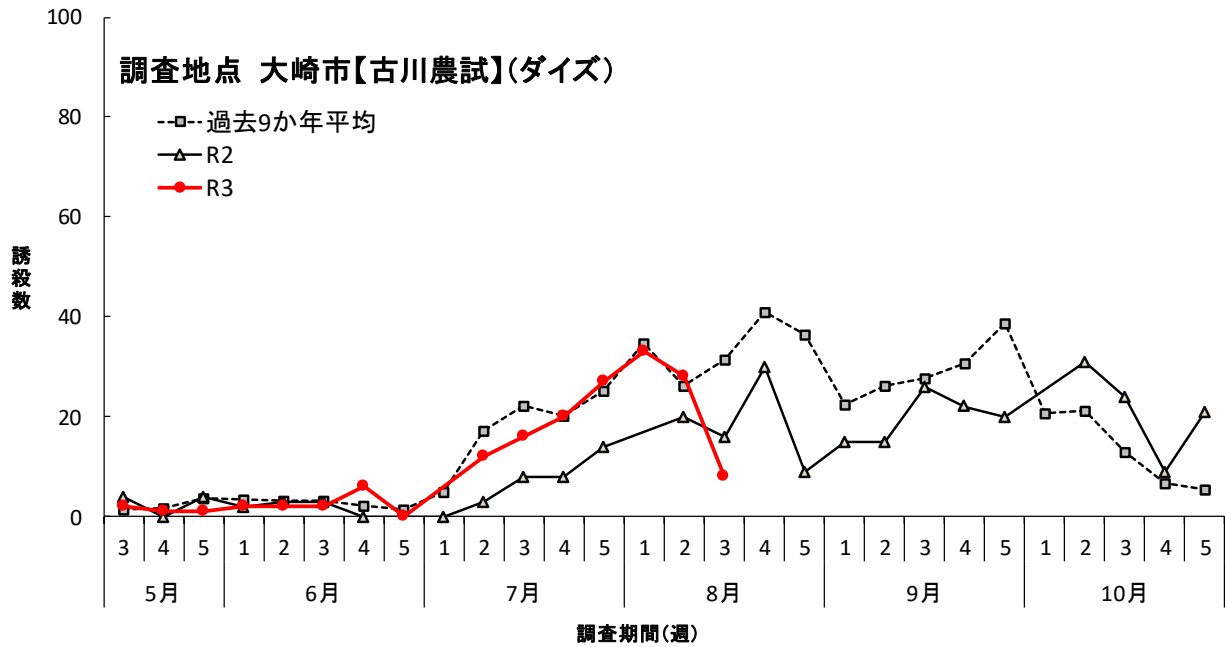


図3 オオタバコガ雄成虫の発生消長